

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月25日～

先週はジャクソンホールでのパウエル・FRB議長の演説が予想以上にハト派(景気刺激に前向きで金融緩和的な政策を支持する傾向)だったことで、9月の米国の利下げは確実という思惑が強まり、ドルは下落、NYダウは史上最高値更新となりました。

ただし、9月以降については経済データ次第ということでどうなっていくのかは全くわかりません。トランプ関税の影響は9月以降のデータを見て判断するしかないということでしょう。

雇用についても9月初めに発表される8月の雇用統計がどうなるかで金融政策への影響は大きく変わってきそうです。

米国の利下げ期待から8月に入って株高や仮想通貨高など奇妙なリスクオン相場が続いています。ただし、日本にとっては米国の利下げは円高要因となるため日本株高の勢いは弱まってくる可能性があります。

さらに、9月の日本の利上げは国内ではほぼ無いだろうという予想が多いですが、米国からの圧力を受けて、日銀が利上げに動くという予想も投資家の間ではささやかれ始めています。

先週発表された全国消費者物価指数も3%を超えています。年初の4%から見ると少しずつ下がってはいますが国民の感じているインフレ率は2桁レベルではないでしょうか。

お米や生活必需品はこの2年でとんでもなく上昇しています。

それを考えると日本の利上げは米国から見ると遅いと感じるのでしょうか。

海外はインフレをおさえるために連続して利上げし、すぐに2%や3%まで政策金利を引き上げるのが普通です。

パウエル議長がトランプ政権からの利下げ圧力によりハト派に傾きつつあるのであれば、米国からの圧力で日本が利上げに動くというシナリオはあるかもしれません。

そうなると大きく円高が進む可能性がでてきます。

株価が強いので、円安・株高がまだまだ続くという予想も多いですが、秋以降に企業の業績がどうなるのか。年末まで株高という予想は関税の影響を考えると難しいのではと思います。

今発表されている7月分までのデータは関税の影響がほぼ無いか駆け込み需要で強い数字になっているものが多く、問題は9月以降に関税が適用された後の数字です。

ドル／円の動きについてはドル高、ドル安のどちらに動いていくのか慎重に見ていく必要があります。

今週は、水曜のエヌビディア決算や半導体に関する関税率を米国が発表するかもしれないということで、株価が乱高下するリスクも想定しておきたいです。

また、米国の7月個人消費支出(PCEデフレーター)にも注目が集まっています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

ドル／円は先週末のパウエル・FRB議長の演説の後に急落して146円台後半で終わっています。146円台で下げ止まれば148円台まで反発する可能性があります。146円を割り込むと円高リスクが高まります。

146円を割り込むと144円台にサポートがありますが144円も割り込むと142円台が視野に入ります。

上値は147.3円を超えてくると148円を試す動きが出そうですが147円あたりで上値が重くなってくると注意がいります。

<気になるクロス円>

クロス円は方向感があまりなく、動きも通貨によってバラバラです。

通貨ペアによっては上値が重くなっているものもあるので、チャートで動きを確認してから取引することが大事です。

カナダドルは下落が続いていましたが関税問題が解決すれば戻してくる可能性もあります。

南アフリカのランドは日足、週足とも強い動きとなっているので、上昇が続くかどうか注目したいと思います。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月東京都都区部消費者物価指数、7月鉱工業生産などがあります。

米国では7月新築住宅販売件数、7月耐久財受注、6月ケース・シラー米住宅価格指数、8月リッチモンド連銀製造業指数、8月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、4-6月期GDP(改定値)、前週分新規失業保険申請件数、7月個人消費支出(PCEデフレーター)、8月シカゴ購買部協会景気指数、8月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州では、ユーロ圏でECB(欧州中央銀行)理事会議事要旨、ドイツで8月IFO企業景況感指数、8月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで7月消費者物価指数、カナダで4-6月期GDP、6月GDPの発表などがあります。